

岩国医療圏地域医療構想調整会議（令和元年度第1回）議事概要

【日時】 令和元年8月29日（木） 14：30 ～ 15：50

【場所】 岩国総合庁舎1階 入札室

【出席者】 出席者名簿のとおり

- 本年度の地域医療構想調整会議の主な協議事項等について説明を行った。
- 第1回病床機能検討部会協議結果の報告を行った。
- 回復期、慢性期病院について、地域医療構想の達成に向けた対応方針を協議し、各医療機関の対応方針を決定した。
- 山口県保健医療計画の別冊として策定する「外来医療に係る医療提供体制の確保に関する計画」等について説明を行った。

【議事内容】

1 令和元年度地域医療構想調整会議について

県医療政策課から、令和元年度の地域医療構想調整会議の主な協議事項等について説明を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

2 平成30年度病床機能報告結果・分析等に基づく各構想区域の方向性について

県医療政策課から、平成30年度病床機能報告結果等について説明を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

3 令和元年度医療機能分化連携推進事業について

県医療政策課から、地域医療構想の実現に向けた地域医療介護総合確保基金を財源とする医療機能分化連携推進事業による支援について説明を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

4 第1回病床機能検討部会の協議結果について

事務局から、医療機関2025プランの具体的対応方針が該当医療機関からの説明どおり病床機能検討部会において合意されたことなど、議事概要の報告を行った。

(主な意見・質問等)

- 当圏域では回復期病床数が不足しており、回復期を主にしている医師会病院の稼働率を上げることが重要と考える。
- 回復期病床への転換が進まない場合、回復期病床の新規設置は可能か。
⇒基準病床数を超えているため、地域包括ケアシステムや周産期医療のための病床など更なる整備が必要となる一定の病床を除き、新規の病床設置は難しい。
- 当圏域は県東部に位置しているため、広島との連携を考える必要があり、広島に流出する患者が地域に帰って来られるように、回復期病床や在宅支援病院の充実について検討することも必要。
- 広島は岩国から見ると生活圏であり、当圏域からの患者流出を批判的に捉えずに、この地域の実情として考える必要がある。
- 過去3、4年で急性期機能が岩国医療センターへ一定程度集約され、医師会病院がフォローする形で運用されていることは、国の方針とある程度合致している。
- 慢性期病床数は、現状で必要病床数より多いが、重症化する一人暮らしの高齢者を考えると受け皿として欠かせない状況もあり、病床数は地域の実情を踏まえて考えざるを得ない。

5 「外来医療に係る医療提供体制の確保に関する計画」の策定について

県医療政策課から、第7次山口県保健医療計画の別冊として策定する「外来医療に係る医療提供体制の確保に関する計画」について説明を行い、協議の場の設置、不足する外来医療機能、医療機器の共同利用方針等について協議を行った。

(主な意見・質問等)

特に意見・質問等なく、協議事項について承認された。

6 「医師確保に関する計画」の策定について

県医療政策課から、第7次山口県保健医療計画の別冊として策定する「医師確保に関する計画」について、情報提供を行った。

(主な意見・質問等)

- 医師の偏在について、もう少し詳しく分かるデータがあると実感しやすい。
- 当圏域では産科が少なく、小児科医や開業医の高齢化が進んでいるため、医師確保については常に考えていく必要がある。